

常任委員会の審査から

総務企画委員会

私立学校への助成の考え方は

私学振興を図ることは学校教育の発展にとって重要

問 本県の教育力の向上には私立学校の助成は重要である。県では、どのような考え方により私学助成を行っているか。

答 本県の私立学校は、高校生の約25%、幼稚園児の約73%を占め、公教育の一翼を担う重要な役割を果たしている。私学振興を図ることは学校教育の発展にとって重要であるとの考え方のもと、私学助成の充実に努めている。

問 いばキラTVの平成二十五年度の運営と、スポーツ中継実施を含めた今後の番組作りの考え方は。

答 平成二十五年度は地域情報を積極的に収集し小まめに発信していきたい。また、投稿やゲスト出演など県民の皆様に参加してもらいたい。スポーツ中継の配信には課題があるが、今後視聴者数も考慮しながら配信に向け検討していきたい。

問 ひたちなか地区では、水戸対地射撃場返還国有地処理大綱制定後三十年が経過したが、国有地の開発が進まず、グラウンドデザインが見えない。今後の土地利用のイメージを明確にする必要があるのでは。

答 地元と一体で作成した土地利用計画をもとに国営公園や茨

城港常陸那珂港区などでこれまでの取り組みが進展しているところであり、今後も地区の発展に向け努力していきたい。

問 つくば市長が土浦市との合併に前向きな発言をしたと報道されているが、合併する場合は何か支援が受けられるのか。

答 合併特例法が改正され、国の支援として交付税の合併算定替などが残っているのみである。今後、具体的な動きが出てくれば、県としても、必要な助言を行うほか、適切な支援策について検討していきたい。

(ほかに、「義務付け・枠付け」の第四次見直しに対する本県への影響、ハッスル黄門を効果的に使ったイメージアップなども質問)



公教育の一翼を担う私立学校(写真は私立幼稚園の活動の様子)

防災環境商工委員会

消防団への入団促進の取り組みは

女性団員の拡充などに 取り組んでいる

問 県内の消防団員数は減少している。団員確保は厳しい状況にあると思うが、入団促進にどう取り組んでいるのか。

答 県では、消防団の充実強化の一つとして、女性の入団促進に力を入れている。現在三六団体に五百十一名の女性団員がいるが、さらなる拡充に取り組んでいきたい。

問 これまで霞ヶ浦浄化に多額の予算を投入してきたが、水質改善には至っていない。県は、下水道終末処理水など、霞ヶ浦に流入する窒素・リン濃度の低減に、徹底的に取り組むべきと思うがどうか。

答 県では、霞ヶ浦浄化センターにリン濃度をさらに低減させる新たな施設の導入を検討している。湖沼水質保全計画の下に、関係各課の対策を統合しながら、水質浄化を図っていき

問 大卒等未就職者人材育成事業は県が数年前から継続して行っている事業であり、年々正規雇用率が上がってきている。平成二十四年度は特に良い結果だったが、要因は。

答 平成二十四年度は二百四名に対し研修を行い、百七十七名が就職決定、そのうち百七十一

名が正規雇用となった。三年目となり、受託事業者におけるノウハウが蓄積されてきたことや、正規雇用率の目標を掲げ、受託事業者と連携を密にして取り組んだことが要因である。

問 成長産業振興協議会では、具体的にどのようなことを行っているのか。

答 協議会の会員企業に対し、成長分野に関連する業界動向などの情報提供や、大手企業などの工場視察、製品開発に関する勉強会、大手企業とのマッチングなどを実施するほか、大学の教授や技術者などによる技術セミナーを開催している。

(ほかに、微小粒子状物質PM2.5への対応、震災の中小企業への影響なども質問)



訓練中の女性消防団員

保健福祉委員会

「ダヴィンチ」手術の特長は

患者の身体的負担が少なく 安全で精度が高い

問 平成二十五年度に県立中央病院へ導入予定の手術支援ロボット「ダヴィンチ」による手術の特長はどのようなものか。

答 従来のがん手術よりも身体的な負担が少なく、安全で精度が高い。昨年四月に前立腺がん手術が保険適用となったことなどから急速に普及し、二月現在で全国で八十七台、県内では二台目の導入となる。

問 平成二十五年度は第二期県立病院改革の最終年度であり、目標の実現に向けて着実に取り組むとのことだが、課題は。

答 経営状況を良くするには医療人材の確保が課題である。そのため中長期的には県立病院で医療人材を育てていく必要がある。県立病院の重要な役割として、確保・育成した医療人材を県北などの医師不足地域へ派遣し、茨城全体の医療の崩壊を防ぎ、医療の質も高めていきたい。

問 鹿島労災病院はここ数年で大幅に医師が減少し、特に整形外科、外科、神経内科は常勤医がいなくなるなど非常に由々しき事態である。現状の認識と今後の対応は。

答 鹿島労災病院は地域における大変重要な病院であると認識しており、県ではこれまでも派



今後の活用が期待される手術支援ロボット「ダヴィンチ」

遣元大学などに医師派遣を要請してきた。今後も地元と一体となって地域医療の確保に取り組んでいきたい。

問 今般ピロリ菌の除菌が保険適用となり、ピロリ菌と胃がんの関連性が認められたと考える。ピロリ菌検査をがん検診に取り入れる考えは。

答 平成二十四年度、国が設置した「がん検診のあり方に関する検討会」において胃がん検診へのピロリ菌検査の導入についても検討されることとなっており、県としても国の動向を注視しながら対応したい。

(ほかに、脱法ハーブ等の薬物乱用防止対策の強化、ロボットスーツの医療機器承認に向けた取り組みなども質問)